

平成26年度第6回区民版子ども子育て会議  
「切れ目のない支援～若者編～」

平成26年10月30日(木)18時30分～21時  
梅ヶ丘パークホール  
参加者71名

■ 区の施策（若者）についての説明 世田谷区子ども・若者部若者支援担当課長 片桐 誠さん  
子ども・若者部若者支援担当課は今年2年目。若者・福祉保健・青少年など、一昨年までは縦割りであったので、横への繋がりがなかったが、若者支援は横のつながりが必要。  
ひきこもり等の取り組みを行う所管や総合的に取り組む所管がなかった。区長が本部長となって若者支援推進本部を設置した。

### 基本計画

#### 1. 若者の交流と活動の推進

今後の少子高齢化が進む中で地域の中で若者の力が必要となってくるので、主体的な活動を支える。その中で烏山のオルパの支援があった。延べ利用者は6000人。若者が若者を支援する場。年代に近い層がスタッフとして関わっているのが良かったのではないかと考えている。  
今年度からスタートしたのは青少年交流センター。若者の主体的な支援と多世代交流。地域の活性化につなげたい。池ノ上青少年会館・野毛青年の家は若者支援の所管変更になる。野毛青少年交流センターは中高生の居場所になってきていて、3000名の延べ利用者となっている。希望ヶ丘中学が船橋中学と統合するので、跡地活用として複合施設の中に設置する予定。平成31年を目標としている。  
また、児童館では中高生支援館の位置づけとして、週に一度の開館時間の延長をしている。

#### 2. 生きづらさを抱えた若者の支援

社会的な就労支援、その動きの中で、メルクマール世田谷と世田谷サポートステーション、野毛青少年交流センター、特に野毛はかなり広い立地で施設規模の大きいので、今後は野毛青少年交流センターも含めた中で、社会的自立に向けたステップアップした支援を三位一体の中で進めていきたい。今現在、動き出しは若干だが進んでいる状態。

#### 3. 子どもの居場所拠点整備

全区的な交流の中で青少年交流センター3か所、児童館などがあるが、身近な地域の中で、生きづらさを抱えた若者への居場所を昨年からの検討の中から必要性が確認されている。今後、身近な地域での展開をどうしていくのか、さらなる検討が必要となる。

### 若者の社会に向けた文化・情報の発信への支援

これから取り組む支援。

今後、若者の自主的・自発的な取り組みの活動の支援を大きな目標に掲げている。

特に世田谷区は下北沢・三軒茶屋など、文化的に知名度の高い地域がある。そういった場の展開も含め

## 第6回区民版子ども・子育て会議（若者編）

若者の柔軟な発想で、文化的な発信や若者主体の取り組みを支援していく枠組みを作っていきたい。

基本的にはこのように進めていくが、現段階では青少年交流センター・メルクマール世田谷にしても行政主体の取り組みが中心になっているのが事実。今後は当事者である若者世代をはじめ、民が主体となった取り組み事業を支援していく仕組みを整備していきたいと考えている。

若者の取り組みそのものは法の規制を受けない形になっているので割と自由にできる部分がある。逆に言うと行政が裏付け（担保）になる財源が必要になってくる。昨今、子育て支援、保育園の整備、在宅子育て支援などの新制度の関係もあり、喫緊の課題ではあるが、国や東京都を含めた手厚い補助金、財源部でも支援の枠組みがあるが、若者の支援はこれからというのもあり、手探りの状況でやっている。財源的な意味で言えば都や国からの支援が得られない状況で、ほとんど区の独自財源でやっている。進めたくても厳しい状況でもあり、財源的なものは抜きにしても、基本的には知恵とアイデアで勝負しないといけない。区民の力とアイデアをもらいながら連携を取ってやっていきたい。

今日は若者の観点からこのような場を設けてもらっているので、今日出た意見等は今後の若者施策に大いに反映させていきたいので、ぜひ活発な意見を聞かせてもらいたい。

松田

保育園や在宅子育て支援から予算を取ろうと思わないで子ども全体で、他から取りましょう！子ども・若者全部で優先課題として挙がっていくといい。子育て支援なども、まだ全然手厚くない。たばこ税が2兆円ほどあり、一般財源に落ちているらしい。子どもに出来ないかな・・・と思った。ここで、グループ毎に自己紹介を。

### ■ 各グループで自己紹介。

松田

最初と変わって、だいぶ空気がいい感じになってきました。いつもは地域や区の人など、色々な立場の人たちとやっていて、NPOっぽく、お互いの立場はフラットで。今日は中学生が来てくれているので、若い人の話を聞き、質問をしてみてください。

各テーブルに入っている10代と20代前半の人に、最近どんな感じなのか、どう思っているのかを先に話してもらいたいと思う。ここだけの話で大事にされるので安心して話してください。

テーマは若者のことなど。

### ■ グループ発表

グループ4・（野毛青少年交流センター・職員）

昨年度はNPO法人せたさんとして烏山中高生世代を応援、運営。

## 第6回区民版子ども・子育て会議（若者編）

今年度は野毛青少年交流センターで文化学習共同ネットワークの職員として働いている。

去年は休学していたので2回目の4年生。

自分が以前から思っていたが、「大人の事情」とよく言われる。「予算ってなんだよ！」と高校生の時に思っていた。予算がいくら足りなくて、いくら捻出すれば自分たちがしたいことが出来るのかは考えられる。若者からもアイデアは出せると思っている。要望を出した時に、考えておくよ・・・ではなく、一緒に考えてくれる大人がいい。それは中学生や高校生の時からずっと思っていたこと。

不満もたくさんあったが、お世話になった人たちや、やりたいことに対して背中を押して応援してくれた人たちがいることが嬉しいし、今も感謝している。若者を引っ張ったり連れて行くのではなく、背中を押してくれる大人が良いな・・・と若者の立場で思います。

### グループ5・（松沢地区ジュニアリーダー・大学生）

中高生支援メインの団体だが地域活動もしている。中高生と大人をつなぐ懸け橋として活躍したいと思いつながりながら活動をしている。

自分自身は児童館っ子で、児童館で色々活動をしているが、色々と言うタイプではない。むしろおとなしく見えて、大人の事情と言われると、そうなんだ、もしかしたらこうなのか・・・と思いつながりながら聞くタイプ。後になって、こんなことがやってみたかった。と言うと、言ってくれれば良かったのに、と言われる。それをうまい具合に引き出してくれる場があったら良かったのにと思ったりもする。おとなしい子もいるんだよ・・・と。

### グループ3・（千歳中学校2年）

自分たちはツイッターでオルパ再建について呼びかけをしている。今回はオルパ関係者の人に誘われて参加した。オルパがあった時は、放課後や休日など遊ぶ場所に困っていたらオルパ（に行く）、というように、選択肢に必ずオルパがあった。勉強やゲームをするスペースで、中高生以上の新しい児童館のような存在。オルパのスタッフはとてもフレンドリーで、勉強を教えたり話し相手になってくれてアットホームな雰囲気、また行きたいと思える場所だった。閉館してからは、東京ではお金のかかる施設しかなく、遊ぶ機会が減ってしまった。オルパがとても大事で、場所の問題はあると思うが、もう一度オルパが出来たらいいなと思っている。

### グループ2・（中学2年生）

オルパが閉館してからお金を使う場所しかない。友達に教えてもらう勉強も図書館は迷惑がかかるし19時で閉館してしまう。学校から帰宅すると5時。それからだと2時間しか勉強できない。オルパは20時までやっていて、自分にとっては19時～20時は一番勉強できる時間で、オルパがあればそれも可能で長く勉強できる。再建してほしいと思う。

### グループ8・（大学院生）

自分はゆとり世代だが、それは自分たちが決めたことではなく、大人が決めたこと。先ほどあった、大人の事情の話もとてもうなずける。「これだからゆとりは・・・」という話をよく聞くが、でもそれは私たちが決めたことじゃないのにな。といつも思っている。確かにできてなくてはいけないのも事実で本

## 第6回区民版子ども・子育て会議（若者編）

当ではあるが、自分たちの事情を分かってもらえたら。

今、大学院で学んでいるが、なぜこうなったか（たとえば、なぜコップはこの形なのか）考える機会が少なかった。私含めなぜなのか理由を考えさせてくれる機会が欲しい。

先ほどのツイッターの話ではないが、ネットで救われている子もいる。アイドルなどの画像サイトのコメント欄に、ある女の子がいじめられて学校に行けない。行く気持ちが起きない。と書き込んでいた。そのアイドルチームも解散の危機にある。「これでは私は生きていけない。何を信じて生きていけばいいの!」ともコメントしていた。そこに顔も会わせたことも名前も知らない他の子どもたちが、一緒にアイドルを応援しようなど書き込んでいた。それでその女の子は生きる意味、同じような悩みを抱えている人はたくさんいるとわかって嬉しい。と言っていた。ネット社会は悪い事ばかりではない。大人は使う機会が少ないかもしれないが、救われている子がいると把握してくれると嬉しい。

### グループ8・(プレーリーダー)

私もゆとり世代の23歳です。プレーパークでプレーリーダーをしている。

最近、思ったことで、テレビで政治問題を放送していた。『うちわがなんだ〜』と朝のニュース番組でやっていたが、『なんでこんなのをやっているのだろう?なんでテレビの画面上で繰り返しているのだろう?せっかく見ているテレビの画面になんでこんなものを映してくるのだろう?』で何をやっているんだ?それを見て子どもたちは何の希望もないだろうと思う。そういう大人を見て「なんやねん!」と最近、テレビを見てガックリ感じた。

### グループ7・(中学1年。プレーパークに通っている)。

プレーパークは自由で、飴が作れたり火を起こしたりできる。自分でやりたいことが出来るし、みんなと遊ぶこともできる。ネズミ獲りもできる。その中で私は1人で行くこともある。18~21時に行われる夕食会もある。メニューを決めて作って食べたら、集まったみんなと遊ぶ。そうやって楽しく遊んでいる。

### グループ5・(プレーリーダー・保育士)

プレーリーダーをやっていて、自分自身が子どもにすごく近い大人。

学校が嫌いな時期があった。子どもの声を聞いてくれて大人として返してくれる。でも頭ごなしではない。そういう大人に憧れていた。今の教育は右向け右で出来ない欠品になる。そういうのが嫌い。そういう子にしか見えない世界があるはず。そういう子が社会を変えていくのではないかと思っている。今はプレーパークで働いていて、保育士の資格も持っている。児童養護施設に勤めていたが、『働くってどういうことなんだろう?』と思っていた。施設ではアルバイト勤務だったが、なんと24時間勤務だった。『働くってこういうことなのか・・・』とずっと思っていた。その当時は資格を持っていなかったが、子どもを24時間、1人で見させられた時期があった。こういうものだろうと思っていたが、そうではなかった。社会は大変なんものだというが、『そこまで大変でいいのか?そんな辛いものでいいのか?』と悩んでいる時だった。「保育がいやだ!」となった時に「その気持ちは大切だから外に出した方がいい」と言われた。なりたかったことを目指して真っすぐ進んだが施設の職員になれず、そのあとに自分の居場所が完全になくなったことに気付いた。周りは卒業して働いていて遊ぶ相手もいない。となった時に、

## 第6回区民版子ども・子育て会議（若者編）

『自分の居場所はどこにあるのだろうか？』と感じた時期があった。児童館が自分の居場所なんだと感じている人も、卒業したらそこは居場所ではなくなっていたが、プレーパークは何歳でも来ていい場所だった。職員になった時に、プレーパークは子どもの遊び場だが、居場所作りの用途もあるので今は若者をもっと呼んでいきたい。

『居場所は どうやってできていくのだろうか？』と考えた時に、(電話の)チャイルドラインは苦痛であってもかけることはほとんどない。自分はかけない。なぜなら、与えられている、やってあげている感じがあるから。居場所を求めていっても、それを絶対に認めようと思わない。が、プレーパークは音楽をしたり職員と仲良くなって遊んだりしているうちに、なんとなく居場所になっていく。

今日は若者の居場所作りというが、「居場所を作ってあげるよ！」という印象を受ける。居場所がメインではない。勝手に居場所になればいいと思っている。自分が感じていることは他の人も感じているのではないかと思い、ネットを使ったりプレーパークのスタッフと中学校にイベントをお知らせしに行ったり、自分自身の友達にも声をかけている。

居場所をメインではなく、自分の居場所を作っていく。大事なものは「居場所は与えられるものではなく自分自身で作っていくものだ！」ということ。

### グループ1・青少年松沢地区委員会ジュニアリーダー・大学1年生)

今19歳。大人でも子どもでもない年頃。そんな中、大学生活をしながら世田谷区内でボランティア活動をしている。

世田谷区内の事業や地域のお祭り、キャンプなど地域活動を手伝って人生を楽しんでいる。高校生の時も世田谷区内のボランティア団体で活動していたが、やはりお金がかかってしまう。施設やキャンプ、イベント毎にかかる。イベントをするのに大人の事情でお金がないからできないと言う大人はカッコ悪いと思っていた。今、中高生と関わりを持って遊んでいるが、今の自分が一番、悩みをわかってあげられると思う。一緒に何か作れるような機会を与えていけるような大人になっていきたい。年代は違うがフラットに、一致団結してやっていけたらと思う。中学生や高校生は大人に気合を入れて文句を言ってやりましょう！

### グループ9・(世田谷区子ども・若者部支援担当)

スーツを着ているけど若者です。若者支援課の南です。24歳なのでギリギリOKです。

元々すごい引っ込み思案。学校・家・塾のトライアングルから若者、特に中高生は出る事ができない。自分はまさにそれに嵌り切っていたタイプ。中高時代はごく小さな親しい人たちだけで閉鎖的な場所で過ごしてきた。若者支援担当課に来て、中高生たちは自分たちのやりたいことがある。今、話していた中高生たちもすごいはっきりと話していて、すごいなと思っている。そういう人たちを見ていて、自由が最強なんだ。自分のように「やれ」と言われて、はい、やります。という自分よりも、輝いている子たちが世田谷区に多いと感じている。ひきこもり代表として、他のひきこもりの子たちへ、世田谷区内の中高生に青少年支援施設や施策など、携わっていて良いなと思うものがたくさんある。世田谷区を推す感じで終わっているが・・・青少年施策の意義を感じている

## 第6回区民版子ども・子育て会議（若者編）

### グループ1・（青少年松沢地区ジュニアリーダー）

中学高校と私立だった。児童館は小学生までは行ってたけど、地元の友だちは中学で出来た友達と遊んでいるので、離れてしまう。公園へ行っても、友達は携帯を持っているが自分は持っていないので家の中で遊ぶことになる。帰宅が17時や18時になり携帯を持っていない自分はパソコンでメールをするが時間差が出来てパソコンを使う時間もなくなり遊ぶ機会が全くない。高校生になって携帯を持っても家が離れている（高校の）友だちとも遊べない。学校・家・塾の往復しかない。中学でジュニアリーダーに誘われて、地域のイベントに参加できるが、遠くの学校に通っている子は地域の活動に参加できない。やりたくてもどこに連絡してどう参加すればよいのかわからない。地域に友達があまりいないから参加できない。そういう思いが多々あって、そういう子どもたちもたくさんいる。地域・学区内に通っていない子どもたちにも目を向けていると思っても抜けていることもあるから、活動に参加したくても出来ない子どもたちがいることも覚えておいてください。

### グループ10・（サン・ベビールーム）

世田谷区の括りで言うところの若者、39歳。長女は23歳。

ここにいる皆さんはプレーパークがあるからなのか、居場所づくりが今の時代すごく叫ばれ進んでいるからなのか、恵まれているなど思っている。

自分は複雑な家庭で育ったので、この地域・・・という場所が特定できない。小学校や中学校は違う区に通っていた。両親が別々に暮らしていたので行ったり来たりしていて、最終的にこの人の子どもが欲しいとなり、家を出て自分の居場所を確保する。が、男性とはなかなかうまくいかず、子ども2人を1人で抱えて生きていくか・・・そんな若者時代を過ごした。

求めるものがあるのは大事で、それに向かって頑張れるのも素晴らしいことだが、大人をもっと上手に使って欲しいと思うし、これじゃないとダメだ！と思わないで欲しい。プレーパークなどは確かに素晴らしい場所だが、それだけではなく、いろんなものを認め合いながら、居場所は自分で開拓していく。その開拓の仕方もいっぱいある。当人も大人も思えたら良いと思う。

因みに16歳と18歳で子どもを産んだけど、子どもはちゃんと大学生になってくれました。

### グループ10・（砧・多摩川あそび村）

自分は児童館で育てられ過ごしてきて、今でもそのままずっと活動が続いている感じ。

活動する時にお金ない、イベント参加できないそんな子が結構いた。児童館でキャンプ行くにもお金がかかるけどお金がない。そんな時に地域と連携して商店街のお祭りや学校の盆踊りに参加をさせてもらい活動資金を捻出して行けない子たちの参加費用としていた。「これをやりたいから頼んで受けるではなく、やりたいことがあると自分たちでどうお金を工面していくか大人と相談して作っていく」という活動を若者時代やっていた。今現在も同じように、「これをやりたいからお願いします」「お金をください」ではなく、「自分たちはこれができるよ、何ができる？」と考えたうえで、それを受け入れる大人がもっともっと増えてほしい。『心広い大人がまだまだいっぱいいるよ』と『深く受け持てる人がいっぱいいたらいいな』という気持ちでこの場に参加している。

保坂区長

## 第6回区民版子ども・子育て会議（若者編）

世田谷区基本構想を昨年（2013年・平成25年）9月に議決されたが、20年後のビジョンという事で中高生の意見も聞く場を作った。世田谷区のジュニアリーダーやユースミーティングなどで鍛えられていた子どもたちが多かったので、次々と意見が出た。その時、「区長は自分たちの話だけを聞いて、区長自身の話は何もしなかったじゃない」とクレームが出て、『時間切れで逃げた』と言われたが、そうではないので2回目をやり、**青年の家**でグループ別にプレゼンテーションをしてくれた。この中に素晴らしいアイデアがたくさんあり、一つは中高生や若者には場がない。『大人に遠慮しながら使わせてください』ではなく、中高生自身と、年齢が近い人たちが自主的にコントロールしていく。オルパは期日限定だったが、（場がないという）声を受けて烏山区民センターの改修の際に、窓口業務をやっていた昭和信金の支店跡が期日的に半年空いていたので（オルパを）やっていた。予想を超えてたくさんの方が使ってくれた。会員登録者数は1000人だった。4～5回行ったが最後の方では女子高生に囲まれ、「この場をなくさないでください！」と直訴を受けた。勉強をする場として使っていた子が多かったのが非常に印象的だった。お金を払わないで中高生が放課後にいる場というのは実はないんだ・・・ということで、やはり中高生の居場所を作っていくことは、とても大事。そこで、烏山からは極端に離れているが野毛に青年の家を若者の場として青少年交流センター、池之上の青少年会館をオープンした。

色々なイベントに参加するようにしているが、世田谷区民会館大ホールが若者でいっぱいになる、池之上の青少年会館でやっているダンスフェス。全員が舞台上上がった、（舞台上の）先輩の踊る姿を舞台上に上がれなかった後輩が見ているなど、大変な熱気だった。チャンス・ステージ・スペースがあれば若者はいろいろ工夫、自己表現をして、あるいは地域に参加してくれるのだとよく分かった。

今、児童館25館あるが、活用できる5館を拠点館として中高生に向けてオープンしている。そういった場を提供しながら未来を背負う・・・こういうと「ちょっと待って。いつも未来と言うが、今を見てくれない」と言われる。中高生に「花火はどこでやればいいのですか？」と聞かれるが、やれる場所がほとんどなく回答が出せないのが現状。今、子どもの声について問題として、保育園・幼稚園の周りの住民との理解をめぐる問題で議論が始まっている。シームレスという意味では子どもが生まれてきて若者になり、そしてまた元・若者になるまで、一つながりの色々な区の政策に、特に若い人が絡むチャンネルがなかった。公立中学に行く子もいれば私立に行く子もたくさんいる。高校は都立か私立。そうになると区というものとほとんど関係がなく過ごす時期が大変長い。けれども大変大きな課題を背負っている、若者支援政策を多チャンネルで進めていかななくてはいけない。

### ■ グループワーク開始

#### ■ グループ発表

グループ3（発表者：きぬたま・上原幸子）

ここはオルパ再開してほしいという中学生がいるので、中学生の話を皮切りに、子ども達がどんなところに行きたいのか話をした。「オルパはそこに行けば誰かがいる。学校以外の友だちができたり、大学生に勉強を見てもらったりしていた。今日はどこに行こうか、行く場所はないかな？という時に、まずオルパに行こうという選択肢があった。」ということだった。

その他にプレーリーダーがいるので、終わってそろそろ帰ろうかな～という時間に、中高生に襲われる（笑）不登校で学校に行けない子などがいるが、色々な意味で何かあった時に相談できる大人がいる。

## 第6回区民版子ども・子育て会議（若者編）

色々な場所に、子どもが選べるような選択肢がたくさんあって、居場所がたくさんあればいいなという話になった。児童館は自分たちだけの居場所とは言いつらく、小さい子どもがいるとうるさいと言われてしまうが、小さい子に触れる接点として大事なのではないか。

自分の子どもも高校時代に不登校だったが、多摩川の漁協のおじちゃん達に、学校ではできない体験をさせてもらい、ひなが一日多摩川にいられ、肯定されていたいい場所だった。お金がなくても行ける場所をいっぱい作ってもらえるといいなという話でした。

松田

お金がなくても行ける所マップとかあるといいな

### グループ4

居場所の話を中心にしていた。居場所となった時に、小さい子から大人も若者もいろんな人たちが集まれる場所があるといい。なんとなくお互いに見たり感じたりする場所が少なくなった。一方で、オルパは中高生をメインターゲットにしていた。中高生が枠でメインだったからこそ来られた子も少なからずいる。だからこそ色々なチャンネルが必要。しかしオルパ内だけで収まっていたのではもったいない。そこからいかに地域に出られるか、パスが出せるかが大事。

プレーパークは屋外で寒いし汚いという話もあったが、ただ外だからこそ、室内だと誰かが来たや帰ったが目に見えてわかるが、プレーパークは見えない分、気にしなくて安心できる子もいる。

居場所は何を求められているのか。場所だけではなく、どういう人がいるのか。若者たち向けの場であれば、その人がどういう立場・スタンスで関わっているのかも大事になってくる。フラットな立場で対等な関係で見てくれる大人と若者の関係なのか、それとも違うのか。ただ、一つの種類の人がいても先に進めない。いろんなスタンスを持ったスタッフが必要なのではないか。

家ではほっとできないのか、それは人それぞれだと思うが、何か自分の課題を抱えた時に必ずしも両親に相談するわけでもなく、第三の居場所があった時に、そのスタッフや学校が違う友人などに話ができる環境があるのか。自分がやりたいことや表現したいことを応援してくれる場所なのかが重要。

小学生の時は自由に遊べていいけど、中高生になると「あれこれやって、手伝って・・・」と言われて、ゆっくり過ごしたいのに居心地が悪くなってしまうこともある。そういう時に「役割がなくてもいられる場所も必要なのでは？」という話が出た。

児童館に関しては、中高生の場合だと乳幼児がいると気を使う。気を使えばいいけど、その親の目線が怖い。お母さん側の立場からしても、ママ友としゃべって帰りたい。ママの立場からしても中高生が怖い。お互いの知り合うきっかけが必要なのでは。

### グループ6

自分も含め、年上が多かったグループなので、昔はできたけど今は何ができなくなったかを考えた。スーパーボールでガラスを割ったなど面白い話が出てきた。

公的空間を行政が管理をし始めると、そこに一般の人からクレームがきて物事が出来なくなってきてしまう。そんな残念な状態にある。クレームを言うてくる人はコミュニケーションが足りなくて孤立しているのではないか。子どもの意見ではなく大人を助ける話になってしまったが、それと合わせて、子ど

## 第6回区民版子ども・子育て会議（若者編）

もに対して怒れる人がいなくなった。地元の人から怒られることによる安心感・繋がりが薄くなってきている。その話を踏まえつつ皆さんの話を聞いて、「ここに怒ってくれる人がいますよ」マップを作って欲しい。マツコ・デラックスがいるわけではないが、ズバズバ怒ってくれて、中高、大学生も行けて自分を認めてもらえるような場所。縦のつながりもとても重要だと思っていて、助けてくれる人が欲しい。

### グループ 2

このグループにいる中高生支援館の代田児童館館長の岡澤さんがいます。岡澤さんとしては、せっかく場があるのに中高生が来てくれない。どうしたら良いのだろうというのが今の悩み。中学生からすると、児童館＝小学生以下の子どもたちがメインなので中高生は使いづらい。それならば「中高生専用館があると良い」という話になった。杉並区のゆう杉並のような施設が世田谷区内にも作れば良いのではないかと。祖師谷児童館と上祖師谷は自転車で10分とかからなくらい近い。粕谷も含めると3館が近いので、そのうちの1館が専用館にしてくれるよう考えられないか。また、勉強を集中的にする19時～20時にするため、それができるオルパがやっぱり良かった。児童館は利用時間が19時までで短い。部活などが終わって17時半や18時に帰宅してからだと足が遠のいてしまう。事情があって19時までとなっていると思うが、中高生支援館としての金曜日と土曜日の中高生タイムをもう少し延長しても良いのではないかと。なぜ児童館へ中高生がいかないのか。勉強する場所が中高生は欲しい。だからオルパを使っていた。代田児童館も一つ、勉強をする部屋に変えた。子ども達の意見を吸い上げてやっていきたいと代田児童館も思っているが、なかなか吸い上げられないことが悩みの種。会議を開いても先に繋がらない。その中で小中学校を巻込んで児童館が何かできればもう少し門戸は広がるのではないかと。

### グループ 5

児童館ではダメ出しされることが多いという意見が出た。あれダメこれダメのダメ出しが多く楽しくないので、児童館には行かない友達がいる。児童館だけではなく地域の中でもつながりが欲しい。ある地域では許容範囲が広いが、他のある地域ではダメ出しが多いから居心地が悪いという地域特性が出てしまう。そのような変な地域特性が出ないような環境作りがしたい。そのためにはどうすれば良いのか話が出た。

昔は学校の校庭解放があったが今はどうしてなくなったのか。公園利用の中では水遊びをするとすぐに怒られる。それは周りの近所からのクレームで禁止になる。理由を考えた時に、怒ってクレームを言う人たちと遊んでいる子ども達につながりが無いから許容できないのではないかと。許容してもらうためにはその人たちとつながりを作れば良いのではないかと？商店街の人たちと関わりを持ったり、働いている人たちと関わりを持つのは難しいので、お年寄りの人たちと子どもが関わるような環境にしたなら地域の中でつながりができるのではないかと。

児童館の職員は半年や一年、長くても三年で変わってしまう。小学生の途中で行かなくなり、中学生になって久しぶりに顔を出すと全員知らない職員になっている。長年関わって子どもと縁が繋がっているような人がいたら、子どもにとって居心地の良い居やすい地域になるのではないかと。

### グループ 10

（中学生）オルパ中高生運営委員会でオルパにいた。自分たち中高生のことをたくさん考えて居場所を

## 第6回区民版子ども・子育て会議（若者編）

作るために、大勢の大人の人が集まって動いてくれているのが中高生からするととてもうれしいです。ありがとうございます。

（中学生）プレーパークで遊んでいます。実際に居場所があればいいのかと言うとそういうわけではなく、中高生が実際に居場所だと感じているかというところまで話していました。居場所にいる大人によって、来る人は変わるのかな？と思っている。居場所にいる大人が女性ばかりなら女の子ばかり来るし、男性なら男の子がいっぱい来ると思いました。

### グループ9

自分自身は児童館に通ったことがなく田舎育ちの農家生まれ。目の前は田んぼと川。近所でお世話になっているおじいちゃんおばあちゃんの中で育った。「なぜ児童館は必要なのか？」と聞いた。昔から言われているコミュニティが壊れてしまっているのが新たな形の地域性を世田谷区の中で作っていかなくては行けなく、新たな形での交流場が必要になった。どういう場が必要となってくるか、様々な人が通える多様性のある場所が必要。自分から活発的に関われないような人の場所、活発に行動するような人の場所、色々な場所があり、その時の状況で選択できる場があれば良い。

今後の世田谷区で地域づくりコミュニティづくりはどのようにやっていくのか。昔の良かったところを復活するという考え方はもうないのか？世田谷区だからこそできるコミュニティづくり。一つの建物から色々なものを発信し活動が生まれる。言葉でいうだけで具体的なアイデアはないが、いい意味での拠点づくりが出来れば良い。

このグループは年齢が高いため大人の話をした。迎える大人は余裕がない大人が非常に多い。「子どもはいい子であるべきだ！」「私も働きにいかないといけないから子どもを見ているヒマがない。」「さっさと食べなさい、寝なさい！」そんな社会になりつつあるのかなと思っている。誰でもそうだったわけではなく、大人も余裕がなかった。どのようにしたら大人も余裕を持てるのか。すべてを埋めることはできないが、今の時間の中でどう余裕作りをしていくか。親も子もお互いが尊重し合える関係作り。余裕のなさを埋める日々の活動になっていくのではないかな。

### グループ8

中高生の場合として、何があるか。支援はなんなのだろう？中高生支援、子育て支援、何かをやってあげるとなるが、やられる側として、どう感じるのか。支援と言う言葉が逆にプレッシャーになる。居場所の中では、誰かが何かをやってあげるのではなく、お互いがその場を必要としていて、自然でフラットな感じの中で子どもや若者は素でいられる。そのような場が支援と言う形になってしまいがちになるが、「そういう空間があればいいじゃないか！」と話をした。子育て支援ではなく共育ち。ギブ&テイクの関係で、人対人の自然な関わりがある空間があれば子どもたちは明るくいられる。

### グループ7

中学生が居るグループなので、色々質問をして普段の日常を聞いた。「通っている中学校は校舎が古い。近くの中学校は綺麗で温水プールなどで新しい校舎で羨ましい。プレーパークを頻繁に利用している。夏はキャンプに行き、6日間で2着しか洋服を持っていかなかったのが、汚れて臭くなるが、逆に

## 第6回区民版子ども・子育て会議（若者編）

今しかできない良い経験をしている。自分はオルパ担当だったが、当時は小学生だったので知らなかった。周りの友だちからは行ったことがあると聞いて知っていた。空き家があれば活動したいという人はたくさんいるのではないかな。今はまだ具体的なシステムがないが、オルパの経験を活かして活動したい人ができるようなシステムを作ったらどうか。」という話だった。

### グループ1

私立中高に通っていて、元々の地元の小学校の友だちは公立（区立や都立）に通い、携帯を持っていないことから連絡手段もない。遊ぶ場所や居場所がない。そういう環境の中でどういう場所で遊ぶかという児童館になる。が、中高生になると児童館は小学生が遊ぶ場所という認識になり、行き辛くなってしまふ。児童館というのは、職員さんにとってもよくしてもらってとても居心地がいい。職員を信頼しているのでなんでも話すことができる。卓球などの遊びを通じてコミュニケーションをとっていたが、中学生になってから以降は一度も行かなかった。幼児教育に力を入れている、「小学生の時は行けたけど今はもう行けないな・・・」という印象になる。

公園などの遊び場では騒いでいると近隣に迷惑がかかる。花火などもそうだが、夜に遊んでいるとクレームがきておまわりさんがきてしまう。そんな環境の中では子どもは生きづらい。自分含め、今日会場にいる大人は自分が子どもだった時に、どういうことをして遊んでいたのか、周りの大人はどう対応していたのか。そんなに怒られもせずにはいたのではないかな。昔の大人からすると『危ない遊びばかりだったな・・・』という印象があったと思う。今は周りの大人の目が厳しくなった世界。カミナリ親父や口うるさいおばさんから怒られた経験があって、公園に遊びに行かなくなる。そうすると友達の家に行ってゲームをする。そんな暗い狭い世界で遊んでいても今の子ども達は育っていかないのではないかな。言い方は悪いが育ちが悪くなってしまふのではないかな。お金がなくても遊びに行ける場所。子どもが今一番目的にしている場所は夜遅くまで開いている場所。門限は中学生になると小学生の時よりも長くなる。池ノ上青少年会館は夜22時まであいている。夜遅くまで勉強ができるので利用者が多く、一日に100人くらい来る。周りにこういう場所はある？と聞くと全くないと言われる。22時まで遊べたり勉強できるスペースは子どもの中では貴重な場所となっている。そんな現状から、児童館などでは21時くらいまで遊べる施設を作って欲しいと思う。

近隣とのコミュニケーションづくりとしては、怒られなくて子ども達が遊びやすい場所。それがきっかけになるのではないかな。地域の大人との関係作りに、地域ごとに施設を作って、小さな子どもからお年寄りまでみんなが集まってワイワイとできる場所、コミュニティカフェなどの環境作りをしてもらいたい。

### 保坂区長

若者のプレゼンが良かった。最後に調子が出てくるようで(笑)

児童館が話題になっていたが、時間延長どのようになるか。将来伸ばせないかどうか。オルパで思ったが、勉強するとの予想はなかった。中高生の居場所と考えた時にゲームやおしゃべりをすると思っていた。勉強する場所も必要だった。学習支援もやっていき、場の提供なども課題。プレーパークは行ったり来たりが気にならない場所だった。

今日は様々な分野で活躍されている方、ネットワーキングしている方たちがいる。児童養護施設福音寮の飯

## 第6回区民版子ども・子育て会議（若者編）

田施設長も来ている。養護施設は18歳で出ないといけないが、どのような応援ができるのか相談をしているところ。元気な中高生から悩める中高生や若者。引きこもりの支援スペース。世田谷区の定義では39歳までが若者。長いこと外に出ていない引きこもりの人たちへの相談も9月から池尻のものづくり学校3階にオープンした「メルクマールせたがや」で始まっている。様々は動きが起きていている。交流しながらより良いものを、特に中高生や大学生など若者の声をしっかりと生かして、オルパの経験を礎にしてやっていきましょう。